

八 臨時仮名遣調査委員会で述べ

られた意見 (明治四十一年六月)

大槻文彦

明治四十一年五月に文部省の諮問した「仮名遣ノ件」を審議するために開かれた第二回臨時仮名遣調査委員会(同年六月十二日)で、仮名遣いを改定することに賛成の立場から述べられた意見。大槻文彦(一八四七—一九二八)は国語学者で、『言海』の編者。国語調査委員会委員、臨時仮名遣調査委員会委員。

所収の本文は、文部大臣官房図書課『臨時仮名遣調査委員会議事速記録』(明治四十一年一月)によつた。次項(九)も同じ。

時代ヲ経テ言葉が変ハレバ発音ガ変ハル発音ガ変ハレバ文字ヲ書変ヘルト云フコトハ自然ノ道理デゴザリマス、現在日本モ昔ハ其通りデ、奈良ノ京ガ山城ヘ遷リマシテカラ発音ガ変ハリマシテ皆発音ノ儘ニ書キ変ヘテ居リマス、先ヅ「カキヤル」ヲ「カイヤル」、「白キモノ」ヲ「白イモノ」、「サキツコロ」ヲ「サイツコロ」、「キサキノミヤ」ヲ「キサイノミヤ」ト云フヤウニ「キ」ヲ「イ」ト書変ヘテアリマス、「マシテ況ヤ」ヲ「マイテ

況ヤ」、「アラハシタマフ」ヲ「アラハイタマフ」、「寒ク」久シク「ヲ」サムウ「久シウ」、「タタミガミ」ヲ「タタウガミ」、「キミタチ」ヲ「キンダチ」、「アラム」ユクラム「ヲ」アラン「ユ克蘭」、「カカフリ」ヲ「カウブリ」、「タマハル」ヲ「タウバル」、「ハシル」ヲ「ワシル」、「ハツカニ」ヲ「ワツカニ」、「テミズ」ヲ「テウズ」、「ベカルメリ」ヲ「ベカンメリ」、「マキヅル」ヲ「マウヅル」、「マラス」ヲ「マウス」、「イカズテ」ヲ「イカデ」トカヤウニ総テ書変ヘテアリマス、斯ウ云フコトハ無数デアリマス、ドウシテ斯ウ云フコトガ起ツタカト申シマス、自然世ノ中ガ忙シクナリマスルノデ発音ノ便利ヲ図ル為ニカウナツタト云フ説デ之ヲ音便ト申シマス、併シ又或学者ノ説ニハ世ノ中ガ段々開ケテ来テ礼儀ヲ尊ブ、——礼儀ヲ尊ブニ就イテハ容止ヲ繕フ、容貌ヲ崩サヌ様ニスル「フキ」トカ「ウキ」トカ「ウェ」トカ云フ様ナ音、或ハ「キ」「ク」ト云フ様ナ音ハ唇ヲ余計動かスノデ、ソレヲ避ケル為ニカウナツタト云フ説デアリマス、何シロ王朝ノ世ノ中ニハ斯ウ云フ風ニ発音ガ変ハツテ来マシタノハ残ラズ書変ヘテアリマス、皆様御案内ノ通り其頃ノ書物ヲ御覧ニナレバ皆其通デアリマス、是ハ王朝ノ盛ナ時、言文一致デアツタカラ此姿デアル、学者ノ理窟ノナイ世ニハ斯様ニ自然ノ姿ニ変ハツタモノデゴザリマス然ル所後三条帝ノ御代アタリカラシテ又発音ガ変ハツテ来マシタ、ソコデ発音ガ変ハリマスルト同時ニ一方ニ文章ハ固定

シテ元ノ儘デ書キ話言葉ハ話言葉バカリ変ハルト云フヤウナ
 一種ノ風習ヲ起シマシテ、ソコデ文ト話ト別々ニナリ文章ハ
 学ンデ書カネバナラヌモノトナリ、是ニ於テ自然ニ仮名遣ト
 云フモノガ起ツテ来マシタ、崇徳帝ノ頃ノ藤原基俊ト云フ人
 ガ作りマシタ悦目抄、鎌倉ノ初メニ藤原定家卿ノ作りマシタ
 定家仮名遣、是等ハ前ノ発音トハズツト違ツテ居リマス、ソ
 レヲ見マスルニ其頃ノ発音ノ儘ニ書イタカラ違ツテ来タノカ
 ト思ヒマスルニサウデハナイ、定家仮名遣ノ中ニハ「ヲモム
 キ」ト云フトキニハ「ヲ」ト書クトカ「オモムク」ト云フトキニ
 ハ「オ」ト書クトカ「親子」ト熟語ニナルトキニハ「ヲヤコ」ト書
 キ、「親」トバカリノトキハ「オヤ」ト書クトカ斯ウ云フヤウナ
 コトニナツテ居テ更ニ学理モ根拠モナイモノニナツテ居リマ
 ス、所ガ此定家仮名遣ト云フモノハ殆ド一定シマシテ、明治維
 新頃マデ此規則ガチャント守ラレテ居リマシタ、シカシソレ
 ハ少数ノ京都ノ公家衆、堂上方ノ歌ヤ文ノ中ノ事デアツテ民
 間ニハ頓ト行ハレナカツタノデアリマス、ソコデ一方民間ヲ
 見マスルト鎌倉室町江戸ヲ経テ明治の現在マデ仮名遣ト云フ
 モノハ全ク乱難ナモノデ一定シタコトハ少シモナイ、ソレハ
 鎌倉以来ノ数百年ノ間ノ学者ノ作りマシタ書物或ハ小説浄瑠
 璃ノヤウナモノノ文ヲ御覽ニナリマスト能ク分リマス、殊ニ
 手紙ノ文ナドハ皆マチノニナツテ居リマス、現在デモ手紙
 ノ文ノ東ヘ西ヘト云フ「ヘ」ニ「江」ノ字ヲ用キテ居リ、「左様ニ

候ヘドモ」ノ「ヘ」ニ「得」ノ字ヲ書キマス、是等皆発音ノ儘デア
 リマス又現在市街ノ暖簾看板ノヤウナモノヲ見マシテモ尾張
 屋ト云ヒ近江屋ト云ヒ、又ハ採療治、泥鱸汁、鯨汁ナドト
 云フ、仮名遣ハ皆マチノニ少シモ一定シテハ居リマセヌ、
 ソレデ居テドウカ斯ウカ通ジテ居リマス、現在デモ新聞紙ノ
 上ニ時事新報ノ字音ノ振仮名、通信省ノ告示ノ停車場ノ地名
 ナドノ振仮名モ矢張発音ノ儘デ書イテアリ海軍ノ信号、電話
 ノ姓名帳ナドモ「オ」ト「ヲ」、「エ」ト「エ」ナドハ分ケマセヌデ
 一緒ニナツテ居リマス
 ソレデ仮名遣ヲ改定スルノハ国語ヲ乱ダストカ乱ダサヌトカ
 云フヤウナ説モゴザイマスガ、ソレガ何ヲ論拠トシテ乱ダス
 乱ダサヌト云フコトヲ言フカト云ヒマスレバ是ハ元祿年中ニ
 難波ノ契沖阿闍梨ガ唱ヘ出シマシタ、村上天皇ノ天曆以前ニ
 出来タ書物ニアル仮名遣ヲ採ルト云フ論拠デゴザリマセウ此
 仮名遣ガ、契沖ニ由ツテ初メテ世ノ中ヘ唱ヘラレマシタ、所ガ
 其頃此仮名遣ニ非常ナ反对ガアリマシテ、所謂堂上ノ公家衆
 ノ定家仮名遣ヲ守ツテ居ルモノナドハ無論ニ顧ミマセヌ、ソ
 レデ矢張御維新頃マデ定家仮名遣ヲ使ヒマシテ塙保己一ガ寛
 政年中ニ幕府ノ和学講談所ヲ建テマシタ時ニモ矢張定家仮名
 遣デナケレバナラナカツタ位ノモノデ、トント此契沖ノ唱ヘ
 タコトハ世間デハ用キマセンデシタ、併シナガラ民間ノ国学
 者ハ大分契沖氏ノ説ニ従ヒ始メマシタ、ソレハ此仮名遣ニハ

根拠ガアル、其根拠ト云フハ天曆以前ノ書物ヲ見マスルト小サイ方ノ「ヲ」ニハドノ書物ヲ見テモ「ヲ」ガ書イテアリマス、大キイ方ノ「オ」ニハドノ書物ニモ「オ」ガ書イテアリマシテ天曆以前ノ書物ニハ自カラ一定シテ居ル言文一致ノ世ニハ無論其筈デアリマスガサウイフ一ノ論拠ガアリマスルノデ是レガ学者ノ大層遵奉スルトコロニナリマシタ、併ナガラ契沖ノ唱ヘタノモ一方ニ定家仮名遣ト云フヤウナモノガアツテソレガ杜撰デアルカラシテソレヲ改メヨウト云フカラ起ツタノデアツテ詰リ仮名遣ト云フモノガアルカラソレヲ一ツ整頓シヨウト云フノデ別ニ仮名遣ト云フモノヲ立テタノデ発音ノ儘ニ書クト云フコトガ自然ノ道理ト云フヤウナコトニハ少シモ考ヘガ及バナカツタノデアリマス、ソレカラシテ契沖ガ唱ヘマシタコトガ段々ニ行ハレマシテ契沖カラ七十年ノ後楫取魚彦ガ古言梯ヲ作りマシタ、是ハ天曆以前ノ書物ニ依ツテ一々仮名遣ヲ調べタモノデアツテ、其外本居宣長ノ仮名遣ノ書物ナドモアリマス、ソレデス様ニ古書ヲ調べマシテ仮名遣ト云フモノノ穿鑿ガ段々進ンデ来マシテ天曆以前ノ仮名遣ト云フモノハ略ボマア一定シタヤウナモノニナリマシタ、併シ矢張少数ノ国学者ノ中デバカリ用キラレテ世間一般ニハ決シテ用キラレテ居リマセヌデシタ、明治ノ初メニ政府デ学制ヲ布カレテ契沖説ノ仮名遣デ教科書ヲ作ラレマシタ其時ニ先刻ノ江原サンノ御話ノアツタ掛図ヲ作ラレマシテ「イト」トカ

「キド」トカ云フコトヲ教ヘラレマシタ、ソレカラ教科書ニハ常ニ天曆以前ノ仮名遣ヲ使ヒマシテ、殊ニ新聞紙ノ上デハ明治ノ初メニ読売新聞デ鈴木田正雄ト云フ人ガ古言梯ノヤウナモノヲ座右ニ置キマシテ天曆以前ノ仮名遣ヲ用キルヤウニナリマシテカラ新聞紙ガ大分之ニ従フヤウニナリマシタ、併シナガラ民間ノ多数ハ矢張依然トシテ乱雜デアリマスソレデ此仮名遣ト云モノハ口デ「オー」ト云フノヲ「オフ」ト書キ「オホ」ト書キ「ヲウ」ト書キ「アフ」ワウ」ハウ」ト書ク斯ウイフヤウナノハ此諮問案ニモ沢山アリマス、実ニ煩雜ナモノデ先刻伊沢サンノ御話ニナツタ五千、七千位ハゴザイマセウ、ソコデ天曆以前ノ仮名遣ニ従フトナリマシテモドチラダカ分ラヌ言葉ガアリマス、鯨ノ「ヂ」「可笑」ノ「ヲ」「驕」ノ「オ」モ分ラヌ「用キ」ト云フ「キ」モ「キ」デアルカ「ヒ」デアルカ「俄」ノ「ワ」台所デ物ヲ洗フニ用キル「タワシ」モ「ハ」カ「ワ」カ分ラヌ、是等ニハ学者ニ両説ガアル、斯ウ云フノガマダアリマス、ソレカラ虫ノ「ゲヂゲヂ」ノ「ヂ」、泥鱸ドヂヤウノ「ヂ」モ「ジ」ダカ「ヂ」ダカ分ラヌ、狡猾ナコトヲ「ズルイ」ト云フモ、「ツ」デアルカフヤウナモノガ沢山アル、天曆以前ノ仮名遣ニ従フトシテモ天曆以前ノ書物ニ見エヌ語ガアツテ適従スルコトヲ知ラヌモノガ多イノデアリマス、然ルニ之レヲ発音ノ儘ニ書キマスナラバ更ニ少シモ苦勞ナク書カレマス

又仮名遣ヲ一ツニシマス同ジ発音ノ言葉ガ多クナツテ區別ガナクナルト申ス人ガアリマスガ、ソレヲ申シマスレバ天曆以前ノ仮名遣ニシテモ同ジコトデ「猪」モ「井」モ「藺」モ「牛」デアリマス、「尾」緒「男」小「皆」ヲ「デ」植エ「飢」エ「モ」エ「デ」アリマス此類ガ沢山アリマスカラ混雜スルト云フコトハ同様デアリマス、同ジ言葉ガ二ツアツテ間違ヘサウナレバ人間ノ智慧ト云フモノガ自カラアリマス支那ニ金山寺ト云フ寺ガアリ径山寺ト云ノガアリマスコレニ径径山、コミチケンザン金山山ト符牒ヲ付ケテ言ヒワケマス、公侯伯子男ノ「コウ」ガ二ツアルト「キミ公」ソロ侯「ナドト申シマス学校ニ「ワタクシリツ」(私立)「イチリツ」(市立)ト云フ是等ハ甚ダシイ例デアリマスガ斯ウ云フ風ニ混雜スル言葉ガアレバ自カラ人間ノ智慧デ工夫付ケル能ク人ガ仁賢天皇、顕宗天皇御兄弟ノ御名前ノ弘計、億計ノ區別ガナクナルト申シマスガ、ソレハ日本書紀ニバカリ由ルカラデ古事記ニハ一方ヲ「オホケ」ト書イテアリマス、ソレニ依レバ仔細ハナイ、詰リ大小ノ意味デアリマス

又或論者ニナリマスト極ク根本ニ立入ツテ現在ノ人ノ発音ヲ直スガ好イト云フ説ヲ唱ヘマス、是レハ拙モ出来ル訳デハゴザイマスマイ、「ヲ」ヲ「ウオ」、「ヂ」ヲ「デイ」ト云フヤウナ発音ヲ人々ニ出サセルコトハ拙モ出来ナイコトト思ヒマス、ソレデ「ジ」「ヂ」、「ズ」「ヅ」ハ今、全国ノ人々八九分マデハ區別ガゴザイマセヌ、僅ニ土佐ノ国ト九州ノ端ノ人ノ発音ニ區別

ガ少シバカリ残ツテ居リマスガ、斯ウ云フ僻地ノ音ヲ用キルト云フコトハ如何ナモノデアリマセウカ、昨日渡部主事カラ御配賦ニナリマシタ、宮崎県ノ小学校ノ試験成績ノ中ニ発音ノ區別ガアルト云フ宮崎県デモ「ジ」ト「ヂ」ガ違ツテ居リマスカラ、発音ニ區別ガアルト云フ地方モアテニハナリマセヌソレカラ「カン」「クワン」、是レモ全国七八分出羽奥州、関東、東海道、五畿内、中国マデハ最早區別ガナクナツテ居リマス、ソレデ此「カン」「クワン」ヲ區別スルト云フ地方ノ人モ確カニ正シク區別スレバマダシモデゴザリマスガ、越後ノ人ナドニ了解ヲ「レウクワイスル」ナドト申シテ居ル人ガアリマシタ區別スルト云フ所ノ人ノ発音モアテニハナリマセヌ、ブリツキヘ食物ヲ詰メマス「罐」コレハ英語デ「カン」デアリマス、ソレヲ「クワン」ツメ「ナドト言ツテ居ル人モアリマス、出羽奥州ニ「ハ」「ヒ」「ヘ」ノ音ハナイ「フア」「フキ」「フエ」デアリマス、朝夕ノ発音ニコレヨリ外ハナイ、是レガ又日本ノ古イ発音デアリマスカラ是レモ正シイト言ハナケレバナラヌカラシテ右ノヤウナ「ヂ」「ジ」「ズ」「ヅ」「カン」「クワン」ト云フヤウナ僻地ニ残ツテ居ル音ヲ御採用ニナルヤウニナリマスレバ此「フア」「フキ」「フエ」ノ音モ採用シテ戴キタイト云フコトヲ申出ルカ知レマセヌケレドモ、是等ノ音ヲ用キルコトハ出来マスマイ、発音ノ區別ノアル所ノ區別ヲ無クスルノハ迷惑デアルト云フコトハ能ク人ガ申シマスガ、サウ申セバ反対ニ発音ノナ

イ所ノモノニ発音ノ區別ヲサセルト云フコトモ迷惑デアル、唯迷惑スル人民ノ多数少数ヲ考ヘナケレバナラヌ、ドウシテモ少数ノ所ハ犠牲ニ供セラレルト云フコトハ致シ方モアリマスマイ、又或ハ発音ノ區別アル所ハ地方限ノ学校ノ教授ノ上手心ニ何ントカ宜シイ方法モアリマセウ、詰リ其辺ダケデハ「ジ」「ヂ」、「ズ」「ヅ」ヲ書分ケテ手紙ナリ端書ナリヲ出ス、一方ニ區別ノナイ所ニ端書ガ来テ見タコロガ唯「ジ」「ヂ」、「ズ」「ヅ」ト一ツノ音ニ二ツノ文字ガアルト思ツテ見レバソレデ、通ジナイコトハアリマスマイ

余リ仮名遣ノコトデ専門ニ立入りマスルコトハ止メテ置キマスガ、右ノヤウナ混雜ガアリマスルデ仮名遣ハ発音ノマ、ニ一定シタイト思ヒマス

明治ノ御代ノ人々ガ御互ニ話ヲシマシテ、一方ノ人ノ口カラ発スル声ガ一方ノ人ノ耳ニ入りマシテソレデ意味ガ分ツテ居リマス、其発音ノ儘ノ言葉ガ即チ大日本帝国ノ言葉デゴザイマセウ、仮名遣ヲ改メレバ国語ヲ乱ダスト申シマスレバ五千万人ノ今日ノ日本人ガ国語ヲ乱シテ居ルト言ハネバナラヌ、日本ノ国語ヲ用キテ居ラヌト言ハネバナラヌ、ドウモサウ云フ道理ハナイト思ヒマス、人ニ生き死ニガアル通りニ言葉ニモ生き死ニガアル、活キテ居ル人ガ口ニハ活キタ言葉ヲ使ヒナガラ之レヲ書クトキニハ死ンデ居ル仮名遣ヲ用キルト云フコトハドウモ当ヲ得ナイコトデアラウト考ヘマス

ソレカラ次ニ字音ノ仮名遣ノコトヲ申シマス、此字音ノ仮名遣モ數百年間殆ド乱雜デ更ニ一定シテハ居リマセヌ今日カラ百五十年前延享年中ニ僧ノ文雄ガ磨光韻鏡ヲ作り続イテ安永年中ニ本居宣長ガ字音仮字用格ナドヲ作り文化天保ノ頃太田全齋ガ漢吳音図ヲ作り万延元年ニ白井寛蔭ガ音韻仮名用例ヲ作りマシテ段々研究ガ進ミマシテソレハ世間ニ発表サレテアリマス、是等ノ書物ヲ見マスルト字音ト云フモノハドウモ非常ニムツカシイモノデ、アナタ方モ無論御覽デゴザイマセウ、私共ハ見レバ頭痛ガイタシマス、ソコデ又現在無意識ニ御互ガ平生此字ノ音ハ斯ウ云フ音デアルトシテ用キテ居ル音ニ字音仮名遣ニ拠リマスト非常ナ誤リガ沢山アリマス、賢易ナドノ輸出輸入、此輸ノ字ニ「ユ」ト云フ音ハ無い、「シユ」デアル出モ出ルノ意ノ時ハ「シユツ」デアルガ出ストイフ時ハ「スキ」ノ音デ輸出ハ送り出ス意デアルカラ「シユスキ」ト言ハネバナラヌ、「シユスキ」(輸出)「シユニフ」(輸入)が何万円有ルナドト言ツテモ人ニ分ラヌソレカラ医者ノ療治ノ「注射」ノ射ハ弓術ノ時ニハ「シャ」デアリマスガ、射ルト云フ時ニハ「セキ」ノ音ニナリマス、医者ニ「チウセキ」ヲ頼ムナドト言ツテモ分ラヌ、直接間接ノ接ノ字ニモ「セツ」ノ音ハ無い「セフ」ノ音デアリマス、ソコデ待ノ字ヲ附ケテ接待スルト言フニハ「セフタイ」トナツテ音便デ詰ルコトガアリマスケレドモ応接、直接、間接ノ時ニハ「オウセフ」「チヨクセフ」「カンセフ」

ト言ハネバナラヌ、アナタト「チヨクセフ」ニ談判スルナドト
 言ツテハ分ラヌ、ソレカラ立ノ字モ「リツ」ト云フ音ハナイ
 「リフ」キリデゴザイマス、「リフハフ」(立法)ト云フ時ハ音便
 デ「リツパフ」ト云フモ宜シウゴザイマスガ、独立自立ト云フ
 時ニハ「ドクリフ」「ジリフ」ト言ハネバナラヌ、雑ノ字モ「ザ
 フ」ノ音ホカナイ、雜誌ト云フ時ハ宜イガ混雜ハ「コンザフ」
 ト言ハネバナラヌ、飯ヲ食フコトヲ喫飯(キツパン)ト云ヒ烟
 草ヲ飲ムコトヲ喫煙(キツエン)ト云ヒマスガ、喫ニ「キツ」ノ
 音ハナイ「ゲキ」デアリマス是カラ「ゲキハン」スル、或ハ「ゲ
 キエンハ無用」ナドト言ツテモ分ラヌ是等ノ類ガ沢山アル併
 シ是等ハスベテ日本ノ字音トシテ用キテ差支ヘナイ、今更改
 メルコトモ出来マセヌ、是ハ諸君モ御同感デゴザリマセウ、
 サウナリマスルト字音仮名遣ノ規則ト云フモノハ先ヅ破レテ
 仕舞フ

諸先輩ガ定メタ字音ノ規則ニ依ルトシマシテモマダ決マラヌ
 ノガアリマス、烏帽子ノ烏ナドモ「エ」カ「エ」カドツチカ分ラ
 ヌサウ云フ分ラヌノモマダアリマス、又字音ニハ字ニ因ルト
 漢音ト呉音ト二ツアルノガアリマス、法ノ字ハ漢音デハ「ハ
 フ」呉音デハ「ホフ」デアアルカラ法律ト云フ時ニハ「ハフリツ」
 ト書キ法名ハ「ホフミヤウ」ト書カネバナラヌ、尚ト云フ字モ
 漢音ハ「シヤウ」呉音ハ「シヨウ」デアリマスカラ高尚ナ教育ナ
 ドト云フ時ニハ「カウシヤウ」デ一休和尚ナドト云フ時ハ「オ

シヨウ」トセネバナラヌ、是等ハ無数デ有リマス、ソレカラ平
 声上声去声中ノ十一真、十二文、十三元、十四寒、十五刪、
 一先ノ六韻ノ字音ハ「シヌ」「ブヌ」「ゲヌ」「カヌ」「サヌ」「セヌ」
 (舌内音)デ十二侵、十三覃、十四塩、十五咸ノ四韻ノ字音
 ハ「シム」「タム」「エム」「カム」(唇内音)ト書カネバナラヌ、
 ダカラシテ「山」ハ「サヌ」、「三」ハ「サム」ト書カネバナラヌ又
 「カイ」「タイ」「セイ」ナド云フハ「イ」ノ音デ「ルキ」トカ「スキ」
 トカ「ズキ」トカ云フ「ウクスツヌフムユルウ」ノ下ナノハ「キ」
 ト書カネバナラヌデ非常ナ面倒ナモノデアリマス、ソレカラ
 同ジ「シヨウ」ト云フ発音デモ「シヤウ」「シヨウ」「セウ」「セフ」
 ガアリ同ジ「チヨウ」ノ発音デモ「チャウ」「チヨウ」「テウ」「テ
 フ」ガアリマシテ、ソレガ残ラズ濁リマス「ジヨウ」ト云フ
 音ガ八通りニナリマス其外議案ニモ沢山見エマス通り非常ナ
 區別ノアルコトデアリマス

ソレカラシテ能ク人ガ漢字音ハ覚エルニ左程ムツカシク無イ
 ソレハ偏カ旁カガ同ジ形ノ字デアレバ大抵同ジ音ダカラ類推
 シテ覚エルコトガ出来ルト申シマスガ決シテサウデハゴザリ
 マセヌ、先ヅ術ハ「シユツ」ノ濁リデアリマスガ、術ノ字ノ右
 ト左トヲ取ツテ真中文ノ朮(をけら)ハ「チユツ」ノ濁リデアリ
 マス、述ハ「シユツ」ノ濁リデ恍惚惻隱ナドノ恍ハ「チユツ」ノ
 濁リデ、同ジ恍ガ「イザナフ」ノ意トナレバ「シユツ」デ濁ラ
 ズ、同ジ恍ガ「クルフ」ノ意トナレバ「キツ」ノ音トナリマス、

又辱ハ「シヨク」ノ濁リデソレニ衣偏ヲ附シテ褥(シトネ)トナルモ「ジヨク」デアルガ同ジ衣偏ノ字デモ意味ガ変ツテ子供ノ着物ノ意トナルトキニハ「ヂヨク」ニナル、ソレカラ寺ト云フ字ハ「ジ」デアリ侍モ「ジ」デアリマスガ、病垂ヲ附ケテ痔トナリ手偏ヲ附ケテ持トナルト「ヂ」ニナリ、待ハ「タイ」トナリマス、又女ノ字ハ「ヂヨ」デアルガ「汝」ニナルト「ジヨ」ニナリ徐ハ「ジヨ」デアルガ除ハ「ヂヨ」デアリマス、「襄」ハ「ジヤウ」デアアルガ女偏ニシタ嬢ハ「ヂヤウ」ニナリマス是等ニ土州ヤ九州辺ノ「ジ」ト「ヂ」ヲ區別シテ発音スルト云フ地方デモ一々書物ニ拠ツテ其字毎ニ調ベナケレバ區別ハ出来マイト思ヒマス、其他、周ハ「シウ」デ調ハ「テウ」デ惆ハ「チウ」デ惆ハ「テキ」デアル、専ハ「セン」デ伝ハ「デン」デ軫ハ「テン」デ搏ハ「タン」トナル、毎ノ字モ「マイ」デアリマスガ海ニナルト「カイ」トナリ梅ハ「バイ」デ侮ハ「ブ」トナリマス、相ノ字ハ木偏ニ目デアリマスカラドツチヲ見テモ「モク」ト言ハネバナラヌガ是ガ「サウ」デアリマス、偏旁デ推シテ字音ヲ誤ルヲ百姓讀ト云ツテ人ガ嗤ヒマス類推ト云フコトハ危イ事デアリマス

字音ノコトモマダ申シタウゴザリマスガ専門ニ渉ルコトハ止メマス

ソコデ字音ヲ知ルニハドウシタラ宜イカト申シマスト詩ヲ作ルコトヲ学ンデ平上去入ノ百六韻ニ分属スル文字ヲ知ル外手段ハ無い、併シ人毎ニ詩ヲ作ラセルト云フコトハ拙モ出来ナ

イ又詩ヲ覚エタ所デ数千字音ヲ一々覚エルコトハ極メテムツカシイドウシテモ字音ト云フモノハ如何ナ学者デモ字毎ニ其筋ノ書物ニ拠ツテ引カネバナリマセヌ

支那ノ字音ヲ區別シテ何カ益ガ有ルカト言フニ「シヤウ」ト云フ字モ沢山アリ「シヨウ」モ沢山アリ「セウ」モ「セフ」モ沢山アリマスカラ目印ニモ何ニモナリマセヌ、支那人トノ通弁ニ使フ利益デモアルカト云フニ此儘デハ通弁ハ出来マセヌ、幾ラカ姿ニ似通ツタ所ハアリマスケレドモ決シテ此音デ通弁ナドガ出来ルモノデハアリマセヌ、區別ノ標準ニモナラズ、苦シンデ區別シテモ何ノ必要モ無い

字音ト云フモノハ固ヨリ支那ノ原音デアルガ之ヲ書變ヘタ所デ差支ハアルマイト思ヒマス、英吉利ノ地名ニ「ウオーセスター」ト云フ処ガアリマスガ之ヲ「ウースター」ト発音シマス、日本デモ「ウースター」ト発音ノ儘デ翻訳シテ元ノ綴リニハ拠リマセヌ亞米利加ノ川ノ名ニ「ミスシスシツピ」ト云フ処ガアリマス之ヲ「ミツシツピ」ト発音イタシマス、ソノ発音ノ儘ニ翻訳シテ少シモ差支ハナイ、「イングリシ」ヲ「イギリス」トシ「ホルランド」ヲ「オランダ」トスルモ常ノ事デアリマス、又西洋人ガ日本ノ言葉ヲ写シマスニモ決シテ仮名遣ニハ拠リマセヌ発音ノ儘ニ写シマス、ソレデ互ニ意味ノ分ラヌコトハアリマセヌ、要スルニ学者ガ大層骨ヲ折ツテ研究シタ漢字ノ字音モ世間ニハサツパリ行ハレテ居ラズ、相応ナ学者モ守ツテ居

ラヌト云フコトハ明カデアリマス

詰ル処此処ニ一篇ノ日本ノ仮名文ヲブツツケニ書イテ一字モ仮名遣ヲ間違ヘナイト云フハ非常ナ学者デ無ケレバ出来ナイ、又此処ニ一篇ノ漢文ヲ出シテソレヘブツツケニ片端カラズツト字音ノ振仮名ヲシテ一字モ間違ヘナイト云フハドウモ大變ナ学者デ無ケレバ出来ヌコト、思ヒマス

斯様ナ次第デアリマスカラ国語仮名遣モ字音仮名遣モ古イ所ニ拠ラセルト伝フコトハ非常ニ難イコトデアラウト思ヒマス、英吉利仏蘭西デモ言葉ノ綴リノ六ツカシイノニハ困ツテ居リマシテ学者ガ之ヲ改メヨウト掛ツテ居リマスガドウシテモ行ハレマセヌ、行ハレナイ道理ハアチラデハチャント仮名遣ガ一定シテ居リマシテ学校教育デモ教科書デモドノ書物デモ少シモ違ハヌ、全ク揃ツテ居ツテソレガ数百年間ノ習慣デアリマスカラ改メルコトガ難イノデアリマス、日本ノ仮名遣ハ数百年來区々デ來テ今日デモ区々デドツチヲ書イテモ人ガ頓着シナイ、改正ト云ツテモ何デ是ガ改正デアルカト云フ風ニ見ル位デアリマスカラ此乱雜ヲ一定スルニハ言葉ガ變ハレバ文字モ變ハルト云フ昔ノ誠ニ好イ平安朝ノ習慣ニ倣ツテ明治ノ今日ハ発音ノ儘ニ一定スルノハ今現在此時デアリマセウト思ヒマス

数十年学ンダ者デモ仮名遣ハムツカシイ甚ダ恐レ入ツタ申シ言デハアリマスルガ此処ニ御集リニナツテ居ル御方々デモ仮

名遣ヲ一字モ違ヘズニ一篇ノ文ヲ御書キニナルト云フコトハドウモ御出来ニナルマイト考ヘマス、ソレヲ僅カ六年ノ義務教育ヲ終ヘタバカリデ世間ニ立ツト云フ大々多数ノ人々ニ無理ニ教ヘルト云フコトハドウ考ヘテモ私ニハ感服ガ出来マセヌ又逆モ教ヘ切レルモノデハゴザイマセヌ、小学ノ生徒デハ無イ教員ガ出来マイト思ヒマス、ダカラ殆ド覺エ切レナイ半熟半端ノ教育トナツテ何ノ益モナイ、ドウシテモ御改メニナルベキモノト思ヒマス、サウシテ書クニハ発音ノマ、ニ書クガ古イ書物ヤ其他ニハ「コウ」ト云フ音ヲ「カウ」ト書キ「シヨウ」ト云フ音ヲ「セウ」ト書イテアルノモアルトソレ〴〵ニ教ヘルヤウニスレバヨロシイ、書クト読ムトニハ自ラ難イ易イガゴザリマス

今日ハ台湾朝鮮滿洲其外ヘモ日本ノ言葉ヲ弘メネバナラズ、又外国人ニモ学バセネバナリマセヌ、ソレニ発音ト文字トガ變ハツテ居ルト云フコトハドウモ不都合デアアルマイカト思ヒマス
昔ノ通信ハ早追駕籠カ飛脚デアリマシタ、ガソレガ今デハ汽車、電車、電信、電話ニナツテ居リマス然ルニ通信ノ第一ト云フ文字文章ハ明治四十一年ノ今日マデ少シモ手ガ附カズ昔ノ駕籠飛脚ノ儘デ居リマス、何事モ改良スル我邦ガ知識ヲ伝ヘル唯一ノ道具ヲ旧トノ儘ニシテ少シモ手ヲ着ケヌト云フコトハ甚ダ当ヲ得ナイ不思議ナコト、考ヘマス

ソコデ古イ仮名遣ハ中等教育高等教育ニハ無論学バセネバナ
ラヌ、先ヅ幾千萬有ル古イ書物ヲ読マセネバナラヌ、又歌ヲ
咏ムトカ古イ姿ノ和文ヲ書クトカ云フ人国語ヲ研究スル人ニ
ハ勿論デ仮名遣ガ新タニナレバ古イ仮名遣ハ衰ヘル気味ニナ
リマセウカラ益々之ヲ将励シテ教育ヲ維持シナケレバナラ
ヌ、斯ク申ス私ナドモ己レ一個ノ専門トシテハ天曆以前ノ仮
名遣モ研究イタシマセウ鎌倉室町江戸時代ノ仮名遣モ研究イ
タシマセウ、ソレハ国語ノ上ノ専門ノ事デアツテ必要ナコト
ハ論ズルマデモアリマセヌガ唯々世間普通ノ者ニ施行スルト
云フコトハ今ノ世ノ中ニハ如何カト思ハレマス、詰リ日本ハ
丁度伊太利ノヤウナモノデ伊太利人ハ羅甸人ノ子孫デアリマ
スガ現在ハ新シイ言葉ニナツテ居リマシテ古イ言葉ハ羅甸語
トシテ研究シテ居リマス、我ガ日本モサウ云フ工合ニイタシ
タイト思ヒマス、今ハ各国ノ言葉サヘ研究スルト云フ時デア
リマスカラ己ガ国ノ古イ言葉、仮名遣ハ無論之ヲ研究セネバ
ナラヌ、高等教育ニハ無論ノ話デアリマス、サウシテ字引ノ
中ノ言葉ノ語源ヲ記ス処ニ古イ仮名遣ヲ書イテ置キマスレバ
何時マデ経ツテモ滅ビル気遣ハアリマセヌ

右ノ次第デアリマスカラ仮名遣ハ今ガ改良スベキ丁度好イ時
デアラウト思ヒマス、尚改良ノ程度ニ至ツテハ御協議ノ上デア
リマスシ、尚又原案ノ逐条ニ至ツテ述ベルコトガゴザイマ
セウ先ヅ愚見ハ是丈ケデゴザイマス

九 臨時仮名遣調査委員会で述べ

られた意見

(明治四十一年六月)

森 林 太 郎

明治四十一年五月に文部省の諮問した「仮名遣ノ件」を審議するために開かれた第四回臨時仮名遣調査委員会(同年六月二十六日)で、仮名遣いを改定することに反対の立場から述べられた意見。森林太郎(一八六二—一九二二)は号鷗外、陸軍軍医、文学者で、軍医総監、帝室博物館総長。臨時仮名遣調査委員会委員、臨時国語調査会会長。

私ハ御覽ノ通り委員ノ中デ一人軍服ヲ着シテ居リマス、デ此席ヘハ個人トシテ出テ居リマスケレドモ、陸軍省ノ方ノ意見モ聴取ツテ参ツテ居リマスカラ、或場合ニハ其事ヲ添ヘテ申サウト思ヒマス、最初ニ仮名遣ト云フモノハドシナモノダト私ハ思ツテ居ルカ、ソレカラ仮名遣ニハドシナ歴史ガアルカト云フコトニ就イテ少シ申シタイノデアリマス、既ニ今日マデ大槻博士、藤岡君等ノヤウナ老先生、ソレカラ専門家ノ芳賀博士等ガ斯ウ云フ問題ニ就イテハ十分御述べニナツテアリマスカラ、大抵尽キテ居リマス、ソレカラ当局ノ方デモ又調査ノ初メカラ此事ニ関係シテ居ラレル渡

部君ノ如キハ詳シイ説明ヲ致サレマシタ、其外達識ナル矢野君ノ如キ方ノ議論モアリマシタ、又自分ノ後ニ通告ニナツテ居リマス中ニハ伊沢君ノヤウナ経験ノアル人モアリマス、又其ノ他諸先生ガ居ラレル、然ルニ私ガ斯ノナ問題ニ就イテ此処デ述べルト云フノハ誠ニ無謀デアツテ甚ダ烏許ガマシヤウニ自分デモ思ヒマス、併シ私ハ少シ今マデ聴イタトコロト観察ガ違ヒマスノデ、物ノ見ヤウガ違ツテ居リマスノデ、ソレヲ述べテ置カヌト云フト、後ニ意見ガ述べニクイノデアリマス、ソレユエ已ムコトヲ得ズ申シマス、一体仮名遣ト云フ詞ハ定家仮名遣ナドト云フトキカラ始マツタノデアリマセウカ、ソコデ此物ヲ指シテ自分ハ単ニ仮名遣ト云ヒタイ、サウシテ単ニ仮名遣ト云フノハ諸君ノ方デ言ハレル歴史的ノ仮名遣即チ古学者ノ仮名遣ヲ指スノデアリマス、而モ其ノ仮名遣ト云フ者ヲ私ハ外国ノ Orthographie ト全ク同一ナ性質ノモノト認定シテ居リマス、芳賀博士ノ奇警ナル御演説ニヨルト外国ノ者トハ違フト云フコトデゴザイマシタガ、此点ニ於テハ少シ私ハ別ナ意見ヲ有ツテ居リマス、主モニ違フト云フコトノ論拠ニナツテ居リマスルノハ外国ノ Orthographie ハ廣ク人民ノ用キルモノデアアル我邦ノ仮名遣ハ少数者ノ用キルモノデアアルト云フコトデアリマス、併シサウ云フヤウニ仮名遣ガ廣ク行ハレテ居ラヌト行ハレテ居ルトノ別ト云フモノハ、或ハ其ノ国ノ教育ノ普及ノ程度ニモ関係シマス、又教育

ノ方向、ドウ云フ向キニ教育ガ向イテ居ルカト云フコトニモ
關係シマスノデアリマス、元來物ノ性質カラ言ツテ見レバ外
國ノ Orthographie ト我ガ仮名遣トハ同一ナモノデアアル、同
一ニ考ヘテ差支ナイヤウニ信ジマス、一体仮名遣ヲ歴史のト
稱スルノハ或ハ宣告ヲ仮名遣ニ与ヘルヤウナモノデアツテ私
ハ好マナイ、一体仮名遣ヲ觀ルニハ凡ソ三ツノ方面カラ觀察
スルコトガ出来ヨウト思ヒマス、即チ一ハ歴史のノ方面デア
ル、一ハ發音的即チ Phonetik ノ方面デアアル、其ノ外ニマダ
語原的即チ Etymologie カラ觀ルト云フ見方ガゴザイマスケ
レドモ、是レハ先ヅ歴史のト或ル關係ヲ有ツテ居ルヤウニ思
ヒマス、一國ノ言葉ガ初メ口語デアツタノガ、文語ニナル時
ニ、此ノ日本ノ仮名ノヤウニ音字ヲ用キテ書上ゲルト云フサ
ウ云フ初メノ場合ニハ、無論仮名遣ハ發音的デアアルニハ違ヒ
ナイ、然ルニ其ノ口語ト云フモノハ段々變遷シテ來ル、一旦
書イタモノガ其ノ變遷ニ遅レルト歴史のニナル、ソコデ歴史
的ト云フコトガ起ツテ來マス、ソレデアルカラ何ノ國ノ仮名
遣デモ保守的ノ性質ト云フモノヲ有ツテ居ルノハ無論デア
ル、日本ノモ同様ト思ツテ居ル、サウシテ見レバ之ニ對シテ
改正ノ運動ガ起ツテ來ルト云フコトハ無論ナノデアリマス、
必然ノ勢デアリマス、又ソレヲ改正シヨウト云フニハ發音的
ノ向キニ改正シヨウト考ヘルノハ是レモ亦必然ノ勢デアリマ
ス、此側ノ主張ハ殊ニ大槻博士ノ御説ガ最モ明瞭ニ、最モ純

粹ニ私ニハ聴取ラレマシタ、仮ニ今日發音的ニ新シク或ル仮
名ヲ定メラレタト考ヘマセウ、サウシタナラバ此ノ新シイ仮
名遣ガ又間モナク歴史のニナツテシマウノデアリマス、語原
的ト申ス意味ヲ此処ニ説明シマスルト云フト、是レハ歴史の
ト密接ノ關係ヲ有ツテ居リマス、外ノ國ノ Orthographie ニ
於テ語原的ト云フコトニハ一種ノ特殊ナ意味ヲ有タセテアリ
マス、一例ヲ以テ言ヒマスルト、國語ノ「スウ」ト云フコトハ
之ヲ「スエ」ト云フトキニハ和行ノ「エ」ヲ書ク、是レハ独逸ノ
例デ言ヒマス、獨逸デ「愛スル」ト云フ詞デ lieben ト云フ
動詞ガアリマス、之レヲ形容詞ニスルト lieb トナリマス、ケ
レドモ「プ」ノ字ヲ書カズニ「ブ」ノ字ヲ書イテアル、斯ウ云フ
意味ニ仮名遣ノ發音ト相違スル点ヲ、主モニ語原的ト外國デ
ハ申シテ居ルヤウデアリマス、斯ウ云フ側ノコトヲ藤岡君ノ
音義説ニ於テ五十音圖ニ照シテ御説明ニナツタノデアリマ
ス、一本本會ノ狀況ヲ觀マスルト云フト、抑モ仮名遣ト云フ
モノノ存在カラシテ疑ハレテ居ル、有ルカ無イカ有無ノ論、
少クモ定ツテ居ルカ定ツテ居ラヌカト云フ定不定ノ御論ガア
ルノデアアル、当局ハ兎ニ角極ツタ仮名遣ト云フモノハアルモ
ノダト御認メニナツテ居リマス、併シ芳賀博士ノ如キハ、三
宅博士ニ御答ニナツタ言葉デ見ルト云フト、多少条件付デ仮
名遣ノ存在ヲ認メテ居ラレルケレドモ、殆ド極ツテ居ラヌト
云フヤウナ風ニ御述ベニナツテ居ルヤウニ聴キマシタ、其ノ

極ツテ居ラヌト云フノハ少数者シカ用キテ居ラヌト云フ意義デアツタヤウニ聴キマシタ、之ニ就イテハ私ハ後ニ又自分ノ意見ヲ申シマス、自分ハ仮名遣ト云フモノハハツキリ存在シテ居ルモノノヤウニ認メテ居リマス、契沖以来ノ古学者ノ仮名遣ト云フモノハ、昔ノ発音ニ基イタモノデアハアルケレドモ、今ノ発音ト較ベテ見テモ其懸隔ガ余リ大キクハナイト思フ、即チ根底カラ之ヲ破壊シテ新ニ仮名遣ヲ再造シナケレバナラヌト云フ程懸隔シテハ居ラヌヤウニ見テ居リマス、凡ソ「有物有則」デアリマシテ口語ノ上ニ既ニ則ト云フ者ハ自然ニアル、此ノ則ト云フコトハ文語ニナツテ来テカラ又一層精シクナルノデアリマス、世界中デ最モ発音的ニ完全ナ仮名ハ古イ所デハ Sanskrit ノ音字、新シイ所デハ伊太利ノ音字ダト申シマス、而モ我仮名遣ト云フモノハ Sanskrit ニ較ベテモンナニ劣ツテ居ラヌヤウナ立派ナモノデアツテ、自分ニハ貴重品ノヤウニ信ゼラレマスル、ドウカ斯ウ云フ貴重品ハ鄭重ニ扱ツテ、縦令ソレニ改正ヲ加ヘルト云フニシテモ、徐々ニ致シタイヤウニ思フノデアリマス、Max Mueller ノ言葉ニ「口語ニ頭絡ト纏トヲ加ヘテ文語ヲ作ツテ居ル」ト云ツテ居リマス、馬ノ頭ニ掛ケル馬具デアリマス、日本ノ文語ニ於ケル仮名遣ト云フモノ、此ノ纏ハ決シテ朽テ用ニ堪ヘヌ様ニナツテ居ルノデハナイ、マダ十分力ノアルモノダト云フコトヲ自分ハ信ジテ居リマス、ソコデ仮名遣ノ歴史ニ付キマシテ自分ノ

觀察ヲ異ニシテ居ル点ヲ二、三申シタイト思ヒマス、古代ノ仮名遣、殊ニ延暦遷都前ノ仮名遣ニ付キマシテ大槻、芳賀両博士等ノ御論ガアリマシタ、其ノ大意ハ是レハ其ノ当時ノ国民普通ノ口語デアツテ、是レガ此頃出来タ出来タテノ仮名遣發音的ニ書カレタモノデアアル、国民ガ皆之レヲ用キテ居ル、丁度現状ノ反対デアアル、斯ウ云フ風ナ御論デアリマシタ、ソコデサウ云フ国民全体ガ用キテ居リマスル仮名遣ニ、本當ノ存在権ガアルノデアアル、今日ノヤウニ少数者ノモノニナツテハ、最早活キテ居ナイ、死物ニナツテ居ルト云フ風ニ聴取レマシタ、扱ソレカラ時ガ移ツテ次ノ期ニ入りマス、遷都後天曆マデト限リマセウ、是レハ古事記伝ニ斯ウ云フ境界ヲ立ツタノガ初メデアリマセウ、天曆マデ即チ十世紀頃デアリマス、此間ニ音便ガ生ジテ来タト云フコトハ今マデノ御論ニモアリマシタ、此ノ音便ト云フ者ハ最早是レハ文語ノ衰替ノ現象デアアル、其ノ事ハ本居アタリデモ「クヅレタルモノ」ト云フコトヲ云ツテ居リマス、衰替ノ現象デアリマス、併シ兎ニ角ソレガ直ニ發音的ニ写サレテ居リマス、扱是迄ノ仮名ハ国民ノ共有物デアアル、此後ニハ少数者ノ使フモノニナツタト云フコトニ多クハ見ラレテ居リマス、併シ斯ウ云フ古イ時代ノ仮名遣ガ果シテ国民一般ノモノデアリマシタカ、此問題ニ付イテハ外国ノ例ヲ較ベテ見マスト云フト、余程疑フベキ余地ガアルヤウニ思フ、Max Mueller 等ハ Dialect 即チ方言ト云フ詞ヲ

斯ウ云フ所ニ用キマス、古代ニ於テハ何処ノ国デモ方言ハ沢山アツタ、其ノ中或ル者ガ勢力ヲ得テ、ソレガ文語ニナルト云フト、他ノ方言ハ勢力ヲ失フカラシテ、其ノ文語ノ為ニ圧倒セラレル、斯ウ云フ風ニ認メテ居リマスルガ、或ハ我邦ノ古代デモ文語ニナツテ居ル言葉ノ外ニ沢山ノ方言ガアツタノデハアルマイカト思フノデアリマス、サウシテ見ルト仮名遣ハ既ニ出来タ初メカラ少数者ノ仮名遣ヲ多数者ニ用キサセルモノデハナカツタラウカト云フ疑ガアリ得ルト思ヒマス、古イ拉甸語ノ如キハアレハ *Latium* ノ中ノ *Roma* ノ中ノ上流者ノ言葉デアアル、ソレヲ *Livius Andronicus* ナドノ力デ文語トシテ、ソレヲ編成シテ、ソコデ拉甸語ト云フモノガ段々ニ歐羅巴全体ニマデ行ハレルヤウニナツタト論ジテ居リマス、或ハ日本ノ初メカラソシナモノデハアルマイカ、サウシテ見ルト云フト、昔ノ仮名遣ハ国民全体ノ用キタモノデアアルカラ是レハ存在スル権利ガアルガ、今日ハ少数者ガ用キルカラサウ云フ権利ガナイト云フ議論ハ、或ハサウ疑モナイ事実トシテハ認メラレヌカトモ思フ、ソレカラ中世ニナリマシテ、次第ニ此ノ一旦定ツタ文語ノ衰替ヲ来シ、言葉ガ乱レル、ソレヲ正サウト思フ個人ノ運動ガ起ツタノデアリマセウ、先日モ御引キニナツタ藤原基俊ノ保延ノコロ即チ十二世紀ノ「悦目抄」ノ仮名遣、初テ此ノ仮名遣デ詞ノ上中下ニ置ク仮名ト云フヤウナコトガ出テ来マシタ、次イデ所謂定家仮名遣ガ出テ参

リマシタ、定家仮名遣ト云フノハ定家卿ガ「拾遺愚草」ヲ清書サセルトキニ大炊介親行ト云フ人ニ之レヲ命ジタ、其ノ親行ガ書キ方ヲ定メタト云フコトニ伝ハツテ居リマス、世間ニ流布シテキル定家仮名遣ト云フモノハ親行ノ孫ノ行阿ノ「仮名文字遣」ニ拠ルノデ、是レニハ種種ナ版ガアリマス、仮名遣ト云フ語ハ一体其ノ辺カラ起ツタノデアリマセウ、此ノ定家仮名遣ト云フモノヲ国語ノ変遷ニ伴ツテ発音的ニ作ツタモノダト云フヤウニ見タ人モ前カラアリマス、ケレドモドウモサウデナイヤウニ思フ、兎ニ角素直ニ発音ニ従ツテ作ツタモノデナイ、イロ／＼ナ理屈ガアル、例ヘバ四声ニ由ルト云フヤウナコトヲ盛シニ説イテアリマス、此四声ト云フモノニ依ツテ定メル定メ方ハ頗ルコジツケデハアルマイカト思ハレマス、芳賀博士モ独断ダト仰シヤイマシタガ、余程独断デゴザイマセウト思ヒマス、医者ノ本ヲ見マスルト、中頃ニ陰陽五行ヲ以テ有ユル病氣ノコトガ説明シテアリマス、丁度ア、云フ氣持ガシマス、一体此中頃ノ定家仮名遣ト云フモノヲ国語ノ変遷ト見ルベキデアリマセウカト云フコトガ問題デアリマス、一体国語ノ變遷ト云フモノハ無論口語即チ方言ニノミ有ル筈デアアル、是レハサウデハナクシテ文語ダケノ一時ノ現象デアアル、變遷ト云フコトヲ *Mueller* ハ二ツニ別ツテアリマシテ、言葉ガ本當ニ生長スルノガ本當ノ變遷デアアル、ソレカラ言葉ガ衰替シテ来ルノハ別デアルト云ツテ居リマスガ、無論

生長ト云フコトハ口語ニシカナイノデアリマシテ、仮名遣ニハナイノデアリマスカラ、サウシテ見ルト衰替現象デアルノハ明白デアリマス、此ノ衰替ノ中デモ殊ニ定家仮名遣ナドハ或時代ノ一ノ病氣ノヤウニ見ラレルノデアリマス、芳賀博士ハ少シ之ニ付イテ杞憂ヲ抱イテ御出デニナル、ソレハ若シ斯ウ云フ時代ノ中世ノ變遷ヲ認メナカツタナラバ、鎌倉以後ノ文学ガ度外視セラレハスマイカト云フノデアリマス、其ノ主モナル証拠ハ所謂「イヒカケ」ガ証拠ニナツテ居ル、是レハ私ハサウハ思ヒマセヌ、「イヒカケ」ト云フモノハ古代ハ少カツタノデアリマス、万葉集アタリハ極ク少イ、「名ガ立ツ」ヲ「立田山」ニカケル等成程皆同音デアル、同ジ音デナケレバ「イヒカケ」ニナツテ居ナイ、然ルニ既ニ定家卿ヨリ前ニモ是レガ變化シテ来マシテ、變ツタ音ノ「イヒカケ」ガアル、俊成卿ハ逢ヒト云フ波行ノ「アヒ」ヲ草木ノ和行ノ藍ニ、其ノ外恋ヲ木居ニカケル、コンナ「イヒカケ」ガ出テ来マス、是レガ成程定家仮名使ノ出タ後ニハ愈々盛ソニナツテ来テ居リマスケレドモ、是レハ単ニ修辭上 Rhetoric 上ノ問題デアリマス、昔ハ同音ノ「イヒカケ」ト云フモノガアツタノニ、後世ニ至ツテ類音ノ「イヒカケ」ガ出来タト斯ウ認定スレバ、ソレデ足ツテ居ルノデアリマス、之ニ付テ何カ後世ノ人が極マリヲ付ケヨウト思フナラバ、上カラカカツテ居ル仮名ニ書クカ、下デ受ケル方ノ仮名ニ書クカト云フコトヲ極メテ置キサヘスレバ、

其位ナ規定ヲ書方ニ設ケタナラバ、之ヲ認メテ置イテ一向差支ナイ、類音ノ「イヒカケ」ガ新ニ修辭上ニ出来タト思ヘバ何ノ差支モアリマセヌ、ソレカラ定家仮名遣ト云フモノハ、是レハ少数者ノ用キタモノデアルト云フコトニナツテ居リマス、之ニハ多少異議ヲ挾ミ得ルカモ知レマセヌ、北朝ノ文和、北朝ノ年号ニ文和ト云フノガアリマス、十四世紀ノ頃、彼ノ文和ノ頃ニ権少僧都成俊ガ万葉集ノ奥書ヲシマシタ、ソレニ「天下大底守彼式、而異之族一人而無之」、「彼式」ト云フノハ定家仮名遣デアリマス、一人モ之レニ從ハヌ者ハナイト云ツテ居リマスケレドモ、併シ此ノ天下ト云フノハ詰リ教育ノアル或ル社会ヲ指シタノデアリマセウカラ、成程定家仮名遣ヲ國民全体ガ用キタト云フコトニハナルマイ、是レハ多分少数デアリマシタデセウ、ソレカラ古学者ノ仮名遣ガ出テ来マス、前ニ申シマシタ成俊ノ万葉集ノ奥書ナドヲ見マスルト云フト、既ニ仮名遣ノ復古ヲ企ツテ居リマス、自分ノ古イ仮名遣ヲ使フノヲ「僻案」ダト云ツテ謙遜シテ居ルケレドモ、兎ニ角古イ仮名遣ニ由ツテ仮名ヲ施シタ、ソレニ次イデ契沖ノ「和字正濫抄」、コレハ元祿六年ノ序ガアリマス、十七世紀ノ頃デアリマス、是等ガ先ヅ復古ノ初リデアリマシテ、其ノ後ノ歴史ハ私ガ此処デ述べル必要ハアリマセヌ、芳賀博士ハ之レヲ Renaissance ダト云ハレマシタ、成程適當ノコトト思ヒマス、丁度西洋ノ復古運動ト同ジ性質ヲ有ツテ居ルヤウニ思フ、

此ノ復古ノ 假名遣ハ 勿論発音的ニ 改正シタノデハアリマセヌ、若シ定家ノ 假名遣ガ 国語ノ 変遷デアッタナラバ夫ヲ元ヘ戻サウトスル此ノ 復古運動ト云フモノハ、非常ナ 不道理ナモノニ違ヒナイ、併シ前ニ申シマス通り定家假名遣ト云フモノハ一時ノ 流行病デアッタカラ、ソレヲ 治療シヨウト思ツテ和学者ガ起ツタノダラウト私ハ思フ、尚ホ進ンデ考ヘマスト云フト、発音的ノ 側カラ見ルト、定家假名遣ヨリカ、復古ノ 假名遣ノ方ガ余程発音的ナヤウニ認メラレマス、此ノ古学者ノ 假名遣モ、勿論諸君ノ 御認メニナツテ居ルヤウニ少数者ノ用ニシカナラナイデアリマス、ソナラ其ノ他ノ 一般ノ人民ハドウシテ居ツタカト云フト、或ハ定家ノ式ニ従ツタト認メル人モアリマセウ、或ハ何ニモ抛ラズニ 乱雜ニ書イタト云フコトモ認メラレマセウト思ヒマス、斯ウ云フ統計ハ殆ド不能デアリマス、無論定家ノ 假名遣デ書クト云フ人ハ物語類デモ読ムトカ、北村季吟ナドガ作ツタ「湖月抄」トカ、ア、云フ物デモ読ンデ居ル人ノ上デアツテ、其外ハ 矢張乱雜デアリマセウ、又漢学ノ方ニ主モニカヲ入レル人ハ 假名遣ナドハ構ハヌト云ツテ 乱雜ニ安ンジテ居ツタノデアリマセウ、併シ是等ガ多数ノモノニ行ハレナイト云フノハ 教育ノ方向、若ハ其ノ普及ノ程度ニ依ツテ定マルノデハナイカト思ハレルノデアリマス、ソコデ 假名遣ヲ排斥スルト云フコトハ 極ク最近ニ起ツテ参リマシタ、斯ウ云フ運動ニモ例ノ 陳勝呉広ノヤウナモノガ

早く前カラアルノデアリマス、既ニ南朝ノ 藤原長親即チ明魏法師モ 假名ハ心ノ儘ニ書ケト云フコトヲ云ツテ居リマス、ソレカラ 極ク近クナリマス、沢山サウ云フ例ガアリマス、漢学者ノ 帆足万里先生、彼ノ人ハ嘉永五年ニ歿シマシタ、彼ノ人ノ「假字考」ト云フモノニ 斯ウ云フコトガ書イテアリマス、「今ノ世ノ 假名遣ト云フモノハ 正理アルモノニアラズ、久シク用キナレヌレバ、強テ破ランモ好カラヌ業ナルベシ、其ノ掟ニタガヒタリトテアナガチニ病ムベカラズ」是レハ 許容説ノ元祖トモ言ヘマセウ、ソレカラ 井上文雄ト云フ先生ガアリマス、明治四年ニ歿シマシタガ、此ノ人ノ「假字一新」ト云フ本ガアリマス、是レモ 假名ハ心ノ儘ニ書ケト云フノデアツテ復古ノ 假名遣ヲ排斥シマシテ、却ツテ定家ノ方ニ 荷担シテ居リマス、ソレカラ 井上毅先生ノ字音假名遣ノコト、是レハ当局ガ此席デモ御引用ニナツテ居ル、斯ウ云フヤウナ 沿革ヲ経テ来テ、サウシテ今日ノ 假名遣改正ノ問題ガ出テ参リマシテ、頗ル 堅牢ナ性質ノ運動ニナツテ来タヤウニ思ヒマス、先ツ斯ウ云フ 沿革ダト自分ハ思ツテ居リマス、是レカラ 少シク自分ノ意見ヲ述ベヨウト思ヒマス、最モ私ガ 感歎シテ聞キマシタノハ 大槻博士ノ御演説デアリマシタ、引証ノ 広イコトハ固ヨリ、総テ御論ノ 熱心ナル所、丁度彼ノ伊太利ノ Renaissance 時代ノ Savonarola ノ説教デモ 聴イタヤウナ 感ガシマシタ、私ハ 尊敬シテ 聴キマシタ、併シ其ノ御説ニハ 同意ハシマセヌ、

少数者ノ用キルモノハ余マリ論ズルニ足ラナイ、多数ノ人民ニ使ハレルモノデナケレバナラスト云フノガ御論ノ土台ニナツテ居リマス、併シ何事デモサウ云フ風ニ觀察スルト云フト、恐クハ偏頗ニナリハスマイカト思フノデアリマス、政治デ言ツテ見テモ多数ニ依ンバ Demokratie 少数ナラバ Aristokratie ト云フ者ガ出テ来マス、此ノ頃ノ思想界ニ於イテ多数ノ方カラ、多数ノ方ニ偏シテ考ヘマスト云フト、社会説ナドモソレデアリマス、ソレカラ之レニ反動シテ極ク少数ノモノヲ根拠ニシテ主張スル Nietzsche ノ議論ナドモアル、之レニ拠ルト多数人民ト云フモノハ芥溜ノ肥料ノヤウナモノデアル、其中ニ少数ノ役ニ立ツモノガ、丁度美麗ナ草木ガ出テ来テ花ガ咲クヤウニ、出テ来ルト云フ様ナ想像ヲ有ツテ居ル、少クモ此ノ仮名遣ヲ少数者ノ用ニ供スル者ダト云フ側カラ之レヲ排斥シマスレバ、其ノ反対ノ側ニ立チマスト云フト、斯ウ云フ風ニ言ヘルカト思ヒマス、一体古来仮名遣ト云フモノハ少数ノモノデアツタカモ知レヌ、又近世復古運動ガ起リマシテモ、此波動ハ余リ広クハ世間ニ及ンデ居ナイニ違ヒナイ、併シ契沖以來ノ諸先生ガ出テ来ラレテ仮名遣ヲ確定シヨウトセラレタ運動ニ、之レニ応ズルモノハ国民中ノ少数デハアルケレドモ、国民中ノ精華デアルトモ云ハレル、斯ウ云フ意見ヲ推拡メテ人民ノ共有ニ之レヲシタイト斯ウ云フヤウナ議論ガ随分反対ノ側カラハ立チ得ルト自分ハ信ジ

マス、兎ニ角多数者ノ用キル者ニ限ツテ承認スルト云フ論ニハ同意シマセヌ、次ニ当局始メ諸君ハ仮名遣ノ有無ヲ論ズルト共ニ、仮名遣ニ正トカ邪トカ云フコトハナイト仰シヤツタヤウニ聴キマシタ、渡部主事ノ御説明ハ私ハ初メノ日ニ遅レテ出マシテ半分シカ聴キマセヌケレドモ、大變精密ナ説明デアリマシテ、其ノ中ニハ自分ガ斯ウ言ツタラバ他人ガ斯ウ言フドラウガ、ソレハ斯ウデアルト云フヤウニ、先潜リマデセラレマシテ有ユル方面ノ防禦ヲシテ居ラレマス、恰モ其ノ老吏獄ヲ断ズト云フ様ナ工合、或ハ Sophist ノ論トデモ云フ様ナ工合ニ、大變巧ミニ出来テ居リマシテ、御苦心ノ程ヲ察スルノデアリマス、是レモ十分ノ尊敬ヲ払ツテ聴キマシタケレドモ、是レモ同意ハ出来ナイノデアリマス、一体正邪ト云フコトヲ説キマスルハ甚ダ聴苦シイコトデアリマシテ、所謂芳賀博士ノ言ハレタ愛国説ナドニモ関係ヲ有ツテ来ル、一体道義ノコトナドヲロニスルコトハ聴苦シイ、ロデ忠義立ヲスル程卑シイコトハアリマセヌ、哲学者ノ Theodor Vischer ガ云ヒマシタコトニ *das Moralische versteht sich von selbst* ト云フコトガアル、道義上ノコトハ言フ俟タナイ、コレヲ口癖ニ Vischer ハ言ツテ居マシタ、ソシナコトヲ言フノハ一体要ラナイコトデアル、併シ国運ノ消長ガ言語ニ関係ヲ有チ又言語ノ精華タル文語ニ関係ヲ有ツテ居ル、随ツテ仮名遣ニモ関係ヲ有ツテ居ル

コトハ明白デアリマス、独逸ノ如キハ新仮名遣ノ運動ガ盛ンニ起リマシテ学校等デ随分広ロク用キルヤウニナリマシタケレドモ、Bismarkノ生涯、公文書ニダケハツヒノ新仮名遣ヲ排斥シ通シタ、ア、云フ豪傑デアリマスカラ何カ深イ考ガアツタカモ知レマセヌ、当局ノ御説明ニ倫理ニハ正トカ邪トカ云フコトガアルケレドモ、仮名遣ニソコトガナイト云フヤウナコトモアリマシタ、ケレドモ倫理ダツテモ矢張變遷ハ始終アルモノデ、吾々が仇討トカ腹切トカ云フコトニ対シテドウ云フ倫理上ノ判断ヲ有ツテ居ツタカト云フコトハ、今日ト前ト較ベレバ大變ナ違デアリマス、倫理ニ於テドソナAuthorityヲモ認メナイトナリマスルト云フト、終ニハ善惡ノ標準ガナイト云フヤウナ騒ギニナリマス、私モ仮名遣ニ絶対的ニ正ト邪ガアルトハ云ヒマセヌ、併シ前ニモ申シマス通り口語コソ變遷ヲ致シマスケレドモ、文語ニ變遷ト云フコトハナイノデアリマス、衰替現象デ變ツテ来ルノデアリマスカラシテ、口語ノ變遷ヲ何時モ見テ居テ、其ノ中固ツタ所ヲ拾ヒ上ゲテハ仮名遣ヲ訂シテ行クト云フ様ナコトナラバ、漸ク以テシテモ宜シカラウト思ヒマスケレドモ、其ノ文語ニ定ツテ居ルモノハ正トシテ、之ヲ法則トシテ立ツテ置イテ宜シイカト思フノデアリマス、芳賀博士モ此ノ正邪ニ就イテ御論ガアリマシテ、河ノ流ノ比喻ヲ御引キニナリマシタ、河ノ流ガ今日流レテ居ル処ハ昔カラ流レテ居ル処デハナイ、必ズ河

流ノ方向ハ變ツテ居ルダラウ、サウ云フ變遷ノ如ク此ノ仮名遣ノ事モ考ヘネバナラヌト云フヤウニ言ハレマシタ、丁度Muellerノ書イタモノニ矢張同ジヤウナ譬ガアリマス、言語ヲ河ニ譬ヘテアリマス、言語ハ流水ノ如キモノデアツテ必ズ變遷スル、ソコデ之ヲ文語トシテ固メテシマフト云フト、池水ノヤウニナツテ腐ル、ソレガ腐ツテシマフト云フト、初メ排斥セラレタ方言ガ何処カニ残ツテ居ツテ、下流水ト云フヤウナ風ニ、何処カニ残ツテ居ツテ、ソノモノガ何時カ頭ヲ持上ゲテ革命的ニ新シイ文語ガ起ツテ来ル、斯ウ云フ譬ヲ引イテ居リマス、故ニ此ノ池水ノヤウニ文語ガ腐ラナイヤウニ仮名遣ヲ訂スノハ必要デアリマスケレドモ、一旦文語トナツタモノハ是レハ法則デアアル、正シイモノデアルト云フコトヲ認メテ宜シイカト思ヒマス、Muellerハ同ジ工合ニ又他ノ譬ヲ使ツテ居リマス、土耳其王ハ子供ノ時ニ遊友達ガアルト云フト、自分ガ位ニ即クト友達ヲ絞殺シテシマフ、自分ガ一人デ權ヲ握ル、併シ言葉ハ或ル方言ガ勢力ヲ得テ文語ニナツテモ、同時ニ其ノ附近ニ行ハレテ居ツタ方言ガ皆殺サレテハシマハナイ、何処カニ活キテ居ル、活キテ居ツテソレ等ガイツカ革命運動ヲ起ス、斯ウ云フ風ニ言語ノコトヲ觀察スルガ宜シイト、斯ウ云ツテ居リマス、兎ニ角土耳其ノ王ガ王ニナレバ、ソレガ一ツノ正統ナ王デアアル、今ノヤウニ腐敗シテ来テ革命的ナ

コトガ出テ来ルト云フコトヲ防グニハ、新シイ貴族ヲ作レバ好イ、新華族ヲ作ルヤウニシテ、ポツ／＼腐ラナイヤウニシテ行ケバ宜シイカト思フ、口語ノ広ク用キラレテ来ルヤウナモノヲ見テハ之レヲポツ／＼引上ゲテ仮名遣ニ入レル、サウ云フヤウニ楫ヲ取ツテ行クノガ一番好イ手段デハアルマイカト思フノデアリマス、私ハ正則ト云フコト正シイト云フコトヲ認メテ置キタイノデアリマス、トコロガ古イ仮名遣ハ頗ル輕ゼラレテ、一体ニ Authorities タル契沖以下ヲ輕視スルト云フヤウナ傾向ガゴザイマスガ、少数者ガシテ居ルコトハ詰ラヌト云ヒマスト云フトドウデセウ、一体倫理ナドデモ忠孝節義ナドヲ本當ニ行ツテ居ルモノハ何時モ少数者デアル、ソレガ模範ニナツテソレヲ広ク推及ボシテ国民ノ共有ニスルノデアリマス、少数者ノシテ居ルコトニモウ少シ重キヲ措クノガ宜シイカト思フ、古學者ナドノ Authority ハサウ云フ風ニ排斥セラレルト同時ニ、単ニ井上毅先生ノ字音仮名遣説ハ殆ド金科玉条トシテ立テラレルヤウデゴザイマスガ、アレモ余リサウ其ノ結構ナ御論デハナイカト思フノデアリマス、一体漢字ヲ仮名ニ書クノハ「易キニ由ル」ノダト云フノガ井上毅先生ノ議論デアリマス、併シ仮名ニ書クノハ易キニ由ルト云フノヲ本ニスベキデハアルマイカト思ヒマス、何処ノ国デモ國語ノ中ニ外國ノ語ガ入ツテ来テ國語ノヤウニナル、ソコデ日本デハ漢語ガ國語ニナル、其ノ道中ノ宿場ノ様ニナツテ、仮名

デ書イタモノガ行ハレルノデアリマス、中ニ全然國語ニナツタノモアル、誰モ知ツテ居ル文ノ「フミ」錢ノ「ゼニ」ノ類デアル、中ニハ消息「セウソコ」ナドト云ツテ是レモ殆ンド仮名デ通用スル國語ノヤウニナツテ居ル、サウ云フ字ハ仮名遣ヲ廢シテ「シヨウソコ」ト書イテハ分リニクイコトニナツテシマヒマス、其ノ外井上先生ノ今ノ支那音ニ引当テテノ御論ト云フモノモ余リ正確ナモノデハナイカト思フ、要スルニ正ダトカ邪ダトカ云フコトガ絶待的ニ仮名遣ニアルトハ申シマセヌケレドモ幾分カ正シイ側ト云フコトガアルダラウト思ヒマス、西洋語ノ Orthographie no orthos ハ正ト云フコトデアリマス、正シク書ク法ヲ Orthographie ト云フ、詞ナドト云フヤウナモノモ人ノ思想ヲ表出スルモノデアルカラ、正シイト云フ詞ヲ用キルノデアリマス、正シイト云事ハ言ヘルト思フ、ソレカラ此ノ正ト邪トノ關係ト云フコトニ連係シマシテ街道ノ譬ト云フモノガ頻リニ本會ニ於テ行ハレテ居ル、昔ノ仮名遣ハ旧街道デアル、其処へ持ツテ行ツテ發音的ノ新シイ仮名遣ガ作ラレル、是レハ便利ナル横道デアル、何モ旧イ街道ヲ正道トシテ便利ナ新シイ仮名遣ヲ邪道トスルコトハナイト云フノデアリマス、此ノ話ハ少シク自分ノ見ル所デハ事實ニ違ツテ居ル様デアリマス、決シテサウ云フ便利ナ新シイ道ガ出来テ居ラナイノデアリマス、例之バ「ツクエ」ト云フ詞ヲ見マシテモ、此ノ子音ニ当ル「ウ」ト云フ音、是ガ響カナイノデ

アリマス、其ノ響カナイノヲ発音的ニ書クナラバ、誰ガ書イテモ「ツクエ」ト阿行ノ「エ」ヲ書イテ居ル筈デアリマス、ソレナラバ新シイ道ガ出来テ居ル訳デ、ソレヲ認メテヤツテモ宜シイ訳デアリマス、併シ實際人ノ書イタノヲ見マシテモ机ノ「エ」ハ阿行ノ「エ」ヲ書イタリ、和行ノ「エ」ヲ書イタリ、波行ノ「へ」ヲ書イタリ、有ユル仮名ヲ使ツテ居リマス、サウシテ見ルト人民一般ハ田トモ云ハズ島トモ云ハズ、道ノナイ所ヲ縦横ニ歩イテ居ルノデアリマス、実ニ乱雑極ツテ居ル、ムチヤデアリマス、ソコデ若シ文部省ニ於テ新シク発音的ニ訂シテ行キマシテ阿行ノ「エ」ヲ書ケト云フ新道ヲ開キマスト云フト、サウスルト今度ハ道ガ二条出来マス、人民ハ又二条ノドレニモ由ラズニ縦横ニ田畠ヲ荒シテ歩クカモ知レナイト思フ、却テ問題ハ複雑ニナツテ来ル、サウ云フ關係ハ独り此ノ仮名遣ノミデハアリマセヌ、文法_且爾乎波ニモゴザイマス、例之ハ文部省デ許容ニナツテ居リマス「得セシム」ト云フ_且爾乎波ガアル、アレハ「得シム」ト云フ詞デアル、併シ口語デハ決シテ「得シム」モ「得セシム」モナイ、口語デハ「得サセル」斯ウ云ツテ居ル、「得サス」ト云フ詞ニナツテ居ル、ダカラ口語ノ変遷即チ言語變遷ニハ何ノ關係モ無クシテ「得セシム」ト云フ詞ガ生ジテ来タ、何故生ジテ来タカト云フト、是レハ言語ノ變遷デハナイ、是レハ文盲カラ生ジテ来タノデアル「得シム」ト云フ詞ヲ知ラナイ人ガ「得セシム」ト云フ詞ヲ書イタ、例ノ

悪口ノ歌ニ「伊勢ヲカシ江戸モノカラニ京キコエシトセシトハ天下通用」ト云フ間違ヲヒヤカシタ歌ガアリマス、丁度ア、云フ訳デ一時流行シテ来タノデアリマス、斯ウ云フコトハ又_且爾乎波バカリデハナイ漢字ニモアリマス、私ハ勿論何ニモ知ラナイ、漢字モ知リマセヌ、併シ模糊ナドト云フ語ハドノ新聞ヲ見テモ「モ」ノ字ガ米ヘンニナツテ居リマスガ、アレナドハ木ヘンダト云フコトデアリマス、斯ウ云フノヲ一々變遷ダト認メテ来ルト今度ハ新シイ漢字マデモ拵ヘナケレバナラヌコトニナツテ来ヨウカト思ヒマス、兎ニ角私ハ今便利ナ新道ガ出来テ居ルト認メルノハ觀察ヲ誤ツテ居ルノデハナイカト思フ、ソレカラ街道ノ比喻ニ対シテ芳賀博士ハ又別ナ比喻ヲ出サレマシタ、旧イ街道ハ是レハ街道デハナイ、廢道ニナツテシマツテ居ルノデアル、荆棘ガ一杯生エテ居ツテ、ソレヲ古学者連ガ刈除イテ道ニシヨウト思ツタケレドモ、人民ハ從ツテ行カナイ、斯ウ云フヤウナ比喻ヲ出サレマシタ、私共ノ立場カラ見ルト云フト、此ノ仮名遣ハ昔モ或ハ国民ノ皆ガ行ツタ道デハナイ、初メモ或少數者ノ行ツタ道デアラウ、ソレガ段々ニ大キイ道ニナツテ来タノデアル、縦令中頃定家仮名遣ガ出マシテ、一頓挫ヲ来シマシテモ少シ荆棘ガ生エマシテモ、荆棘ヲ刈除イテ、元トノ道ヲ拵ゲテ国民ガ皆歩ムヤウナ道ニスルト云フコトガ、或ハ出来ルモノデハナイカト云フヤウナ、妄想カモ知レマセヌケレドモ、想像ヲ自分ハ有ツ

テ居リマス、何処ノ国デモ言語ノ問題ニ付イテハ、国語ヲ淨メヨウト云フコトヲ一ノ条件ニシテ調査ヲスルノデアリマス、其ノ国語ヲ淨メルト云フ側カラ行キマスト云フト、此ノ仮名遣ノ道ヲ興スノガ一番宜シイカト思フ、元ノ仮名遣ヲ興シテ、其ノ中へ新シイ仮名モ採用スル、ソレニハ先ヅ旧街道ノ荆棘ヲ除シテ人ノ善ク歩ケルヤウニシテヤリマス、ソコへ持つテ行ツテ文明式ノ Macadam 式ノ築造ヲシヨウトモ Asphalt ヲ布カウトモ、何レデモ宜シイト云フ考デアリマス、ソレカラ街道ノ比喩ト共ニ許容ト云フコトガ先頃カラ問題ニナツテ居リマス、此ノ許容ト云フノハ Tolerance ダト云フ説明ヲ聴キマシタ、例之バ国デ定ツタ宗教ガアリマシテ、人民ガ外ノ宗教ヲ信ジテモソレヲ許容スル、ソレガ Tolerance デアル、Tolerance ト云フコトヲ使ハレル場合ハ多クハ何カ正則ナモノガ先キへ認メテアル、正則ノモノガナクテ Tolerance ト云フコトハアリマセヌ、彼ノ呂爾乎波ノ許容ニナリマシタトキナドハ、マダ元ノ語格ヲ正則ニシテアル、ソレニ背イテ居ル呂爾乎波ヲ許容スル、斯ウナツテ居リマス、「得シム」ハ正則デアル、「得セシム」ハ許容スルト云フノデアリマスカラ、趣意ハ能ク分ツテ居リマス、此ノ比例ガ仮名遣ニナツテカラ狂ツテ来マシタ、元ノ仮名遣ヲ正則ニシテ発音的ニ新ニ作ル仮名遣ヲ許容スルナラ宜シイ、然ルニ発音的ニ新造スル分ノ仮名遣ヲ正則ニシテ、教科書ニ用キルノデアリマスト、ソレハ

許容デハナイ、之ニ就イテハ度々諸方カラ議論ガアリマシタ、少シ野卑ナコトヲ申シマスルケレドモ、此度ノ仮名遣ニ於ケルトコロノ許容ト云フコトハ、稍々トンチンカンドト思フノデアリマス、此ノ許容ニ就キマシテ、ドウモ私共ノ見ル所デハ、世間ニ便利ナ道ガ出来テ居ルカラ許容スルト云フ其ノ便利ナ道ガ出来テ居ルト云フ御認定ガ、稍々大早計デアル、早過ギル場合ガ、多イヤウニ思フノデアリマス、例之バ「得セシム」ト人ガ書イタトコロガ、ソレヲ直ニ採上ゲテ是レガ言語ノ變遷デアルト云ツテ、是レガ便利ナ新道デアルト云ツテ、御認メニナツテ御許容ニナル、ソナ必要ハナイカト思ヒマス、文盲ノ人ガアツテ「得シム」ト云フ語ヲ知ラナイデ「得セシム」ト書ク、決シテ「得シム」ガ不便ダカラ「得セシム」ニシヨウト云ツテ書クノデハナイノデアリマス、サウスルト新聞ヤ小説デモサウ書ク、ソレガ媒介ニナツテ次第ニ拡ガル、是レモ古ビガ着イテ一ツノ歴史的ノモノニナレバ、誤謬カラ生ジタ詞デモ認メンケレバナラヌノデアリマスケレドモ、ソレヲ急イデ認メルコトハドウモ宜シクナイカト思ヒマス、例之バ氣ノ狂ツタ人ガアツテ道モナイ所ヲ奔リ、衆人ガ附イテ行ク、直ニソレヲ是レガ道ダト云ツテ、大勢ガ附イテ行クカラ道ダト云ツテ直ニソレヲ道ニスルト云フノハ、少シ其ノ仕事ガ面白クナイカト思フ、間違ヲ人ノスルノヲ跡ヲ追駈ケテ歩イテ居ルヤウニ、吾々ノ立場カラ見ルト見エルノデアリマス、

斯ウ云フ工合デ行キマス、例ノ漢字ノ間違ナドモ、ドウカスルト流行ツテ来ル、其ノ跡ヲ追駈ケルト云フト、新シク嘘ノ漢字ノ辞書ヲ作ランケレバナラヌ、嘘字尽ヲ作ルコトニナリハセヌカト思ヒマス、何処ノ国デモ国語ノコトヲ調ベルトキニハ、国語ヲ浄メルト云フコトヲ運動ノ土台ニシテ居リマス、ソレニ反シテ斯ウ云フ風ナ仕事ヲシマスルノハ国語ヲ濁スノデアリマス、勿論初メ誤カラ生ジマシテモ、前ニ申シマスル通り、時代ヲ経テ古ビガ着イテ自然ニ新シイ国語ノヤウニナツタト云フ場合ニハ、無論ソレヲ取ルベキデアリマス、丁度華族ノ御仲間ニ新華族ガ出来テ来ルヤウナ訳デアリマス、ソレハ国語ノ歴史ニモ先例ガアル、例之バ「アラタシ」ト云フ語ガアル、是レガ「アタラシ」トナル、斯ウ云フノハ是レハ口語ノ變遷ニ基イテ新シイ語ヲ認メタノデアリマス、ソレカラ同ジ許容ニナツテ居ル且爾乎波ノ中デモ「セサス」ヲ「サス」ニスルヤウナコトハ、是レハ口語ノ方デ久シク一般ニ行ハレテ居ル、斯ウ云フノハ是レハ認メテ宜シイ、ソレカラ種々ノ漢語ノ字音ニ就キマシテ、間違ノ例ガ今マデモ引カレテ居リマスガ、例之バ畜生ト云フノハ本當ハ「キウシヤウ」ダト申シマス、サウ云フノハ「チクシヤウ」ト云フ国語ト認メテ宜シイ、新シイ語デ言ヒマシテモ、輸出ヲ「ユシユツ」ト云フ、此ノ位ニ固マツテ来レバ国語ト認メルノニ異議ハナイノデアリマス、併シ余リ早マツテ認定ヲシナイデ、少シツ、徐々ニ

認定ヲスルノガ至当ナ方法デアラウト思フノデアリマス、サウ云フヤウニ私ハ少数ノ人ガ用キテ居ツテモ其ノ少数ノ人ガ国民ノ精華トモ云フベキ人デアラナラバ、其ノ用キテ居ルモノヲ広ク国民ニ及ボスト云フコトヲ図リタイト云フ考デアリマス、此考ニ付イテ最モ芳賀博士ナドノ御説トハ衝突ヲ来タスノデアリマス、芳賀博士ハ必要不必要ト云フコトヲ論ゼラレマス、多数ノ用キテ居ラヌモノヲ多数ニ強付ケル必要ハナイト云フノデアリマス、サウ云フコトヲスル権能ハ文部大臣ニアルカドウカ疑ハシイト、斯ウ言ハレルノデアリマス、芳賀博士ノ総テノ御議論ハ実ニ達識ナ御議論デアツテ、感服シテ居リマス、併シ此ノ必要不必要ノ論、文部大臣ニサウ云フ権能ガアリヤ否ヤト云フ御論ニハ、少シ私ハ同意ガ出来ナイノデアリマス、言語ノ變遷ハ口語ノ上ニアリマス、ソレハ自然ニ行ハレテ行ク、文語ノ方ニナリマスと云フト、是レハ人工ノ加ツタモノデアアル、仮名遣モ同様デアアル、併シ文語ニナツテカラ初メテ言語ハ完全ニナル、言語ガ思想ヲ十分ニ表ハスト云フコトガ初メテ文語ニナツテカラ完全ニナル、仮名遣ハ其ノ文語ノ方ノ法則デアアル、若シ我邦ノ仮名遣ガ広ク人民間ニ行ハレテ居ナカツタナラバ、ソレハ教育ガ遍ク行ハレテ居ラヌ為メデアラウト思フノデアリマス、ソコデ丁度昔初メテ仮名ガ出来タトキニ、ソレヲ使フコトヲ當時ノ政府ガ人民一般ニ施シ得タ如ク、今日ノ文部大臣ガ仮名遣ヲ一般ニ教ヘ

ラレルト云フコトハ正当ナル権利ト思フ、権利デハナイ、義務デアル、教ヘナケレバナラヌノデアルト思フ、之ニ反シテ文部大臣ヲ始メ教育ノ任ニ当ツテ居ルモノハ、間違ツタコトヲ、正則ニ背イタコトヲシテハナラヌカト思フ、昔ノ話ニ羅馬ノ Tiberius 帝ガ或ル時話ヲシテ語格ヲ間違ヘタ、サウスルト傍ニ聞イテ居タ Marcellus ト云フ人ガ、今ノハ違ツテ居ルト批難シテ云ツタ、サウスルト Capito ト云フ人が聴イテ居ツテ、帝王ノ口カラ出タ言葉ハ立派ナ拉甸語デアルト斯ウ云ヒマシタ、サウスルト Marcellus ノ云フニハ、成程帝王ハ人民ニ羅馬ノ公民権ヲ与ヘルコトハ出来ヨウ、併シ新シイ言語ヲ作ルコトハ出来ナイ、斯ウ云ツタト云フ、正則ニ反イタコトヲスルト云フ権能ハ帝王ト雖ドモナイ、コレガ必要不必要ノ論デアリマス、併シナガラ必要不必要ノ論ノ外ニモウ一ツ論ガアリマス、仮名遣ヲ国民一般ニ行ハウト云フコトハ不可能デアルト云フ論ガアリマス、此ノ方ノ側ハ大槻博士ノ御論ノ中ニアリマシタ、其ノ中ノ最モ有力ナル論拠トシテ仰シヤルニハ、斯ウシテ委員ガ大勢居ルケレドモ委員ノ中デ一人デモ仮名遣ヲ間違ヘナイモノハナイト云フノデアリマシタ、実ニ其ノ通りデアリマシテ、自分ナドモ始終間違ヘマスケレドモ、間違ツテ居テモ、間違ツタコトハ人ニ聴イテ訂シテ行カウ、子供ニデモ間違ツテ居ナイコトヲ教ヘテヤツテ、少シデモ正則ノ方ニ向ケヨウト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマ

ス、当局ニ於テハ不可能トマデハ申サレマセヌケレドモ、困難ダト云フコトハ申サレテアリマス、是レハ一般ニサウ言ツテ居リマス、困難トナレバ程度問題デアツテ不可能デハナイノデアリマス、現ニ当局ニ於テハ仮名遣ニモ人ノ意識ニ入ツテ居ル部分ト意識ニ入ツテ居ナイ部分トガアルト云フコトヲ言ツテ居ラレル、其ノ意識ニ入ツテ居ル分ハイタハツテ存シテ置イテ、意識ニ入ツテ居ナイモノヲ直スト、斯ウ云フ御論デアリマス、併シ或ルモノハ意識ニ入ツテ居ルト云フコトヲ認メルト云フト、未ダ意識ニ入ツテ居ラナイ部分モ或ハ仕方ニ依ツテハ意識ニ入り得ルモノデハアルマイカト思フ、扱古学者ガ仮名遣ノコトヲヤカマシク論ジテ居ルノニ、例之バ本居ノ遠鏡ノ如キ、口語デ書ク段ニナルト、決シテ仮名遣ヲ応用シテ居ラヌト云フコトヲ、仮名遣ヲ一般ニ普通語ニ用キルノハ不可能デアル或ハ困難デアルト云フ証拠ニ引カレマスケレドモ、是レハ少シ性質ガ違フカト思フ、古学者達ハ文語ト云フモノハ貴族的ナモノノヤウニ考ヘテ居リマスカラ、ソコデ貴族ノ階級ヲ極ク嚴重ニ考ヘマシテ、例之バ印度ノ四姓カ何かノヤウニ考ヘマシテ、ズツト下ニ居ル首陀羅トカ云フヤウナ下等ナ人民ハ、是レハ論外ダ、斯ウ云フ風ニ見テ居リマスカラ、所謂俗言ト云フモノヲ卑シンダ為メニ、俗言ノトキハ無茶ナコトヲシタノデアリマス、若シ仮名遣ヲ俗言ニ応用スル意ガアツタナラバ、所謂俗言ヲ稍々重ク視タナラバ、ア

ンナコトハシナカッタラウト思フノデアリマス、ソレデアリ
マスカラ芳賀博士ガ、若シ本居先生ナドガ今在ツタナラバ決
シテ仮名遣ヲ国民ニ布クナドト云フコトハ云ハレナイダラウ
ト云ハレルノハ、同意ガ出来兼マス、本居先生ガ今在ツタナ
ラバ、必ズヤ国民ニ仮名遣ヲ教ヘヨウトシタダラウト思ヒマ
ス、本居先生ノミナラズ堀秀成先生ノ如キモ、是レハ死ナレ
テカラ間モアリマセヌケレドモ、若シ今日居ラレタラ矢張仮
名遣ヲ国民ニ行ハウトシタデアラウト思フ、明治ノ初年ニ文
部省デハ仮名遣ヲ小学校ニ使用シマシタ、此ノ結果ニ就イテ
モ私ハ見方ヲ異ニシテ居ル、タシカ江原君デアリマシタカ、
存外此ノ仮名遣ハ児童ニ歓迎セラレタト云フコトヲ言ハレマ
シタ、私モ其ノ時ハマダ半分子供デアリマシタ、確ニ歓迎シ
タノデアリマス、若シ彼ノ時ノ文部省ノ方針ガ確定シテ動カ
ズニ今日マデ継続セラレテ居ツタナラバ、或ハ余程人民ニ広
ク仮名遣ガ行ハレテ居リハスマイカト思フ、稍々上ノ学校、
中学以上ニナツテ仮名遣ヲ誤マル例ヲ頻リニ挙ゲラレテ、ソ
レヲ以テ困難若クハ不可能ノ証明ニシヨウトセラレマスケレ
ドモ、是レハ周囲ニ誤ガ多イ、新聞紙ヲ読ンデモ小説ヲ読ン
デモ、皆乱雑ナ仮名遣デアル、目ニ触レルモノガ皆違ツテ居
ルノデアリマスカラ、縦令学校ダケドウ教ヘテモ誤マルノ
デアリマス、併シ明治初年カラ今日マデ若シ仮名遣ヲ正シク
教ヘルコトヲ努力セラレタノデアルナラバ、余程新聞記者ヤ

小説家ニモ仮名遣ヲ知ツテ居ル者ガ今日ハ殖エテ居マシテ、
新聞ヤ小説ガ正シイ仮名ヲ多ク書クヤウニナツテ居ハスマイ
カト思ヒマス、サウシタナラバ中学以上ノ人ナドハソソナニ
間違ヘズニ書キハスマイカト思フノデアリマス、ソレカラ然
ラバ仮名遣ヲ若シ国民ニ教ヘヨウトスルナラバ、ドウシタラ
バ好イカト云フ其ノ方法手段デアリマス、是レハタシカ黒沢
翁膺アタリノ工夫デアリマセウカ、少数ノムヅカシイ仮名カ
ラ教ヘテ行クト云フト、後トノ容易シイノハ自然ニ分ルト云
フ方法ガアリマス、今日デモ仮名遣ヲ教ヘル人ハ、大抵サウ
云フ手段ヲ執ルヤウデアリマス、一種ノ記憶法ノヤウナモノ
デアリマス、斯ウ云フ記憶法デアリマスガ、是レナドヲ猶研
究シタナラバ、教ヘル方法ハ今日ヨリモ一層完全ニ出来得ル
カト思フノデアリマス、仮名遣ノ困難ト云フコトニ就イテハ
主トシテ字音仮名遣ノコトガ挙ゲラレテアリマス、此ノ字音
ノコトハ洵ニ困難ナ問題デアリマシテ、古イト云ツテモ是レ
ハ十八世紀デアリマスルガ、僧文雄ノ「磨光韻鏡」カラ以来、
本居ノ「漢字三音考」ト「字音仮字用格」、文政中ノ太田全齋ノ
「漢吳音図」、現存シテ居ラレル木村正辞先生ノ「漢吳音図正
誤」、先ツ斯ウ云フヤウナ系統デ、字音ノ研究ガシテアル、大
槻先生ノ仰シヤツタ通りニ実ニ是レハ頭痛ノスルヤウナ本デ
アリマス、詩ヲ作ツタコトノナイ者ナドニハ所詮覚エラレヌ
ト云フ御論ハ尤モニ聴キマシタ、併シナガラ是レモ其ノ極ク

困難ナ部分ハ殆ド大槻博士ノ御演説ノ中ニ網羅シテアツタヤウニ思フ、兎ニ角一場ノ御演説デ困難ナ部分ハ網羅シ得ラレルノデアリマシテ、其ノ外ハ割合ニ容易シイノデアリマス、此ノ字音ノ仮名遣ニ対スル、之ニ処スル道ヲ考ヘマスニハ、漢語ガドノ位日本化シテ居ルカト云フ程度ヲ研究スル必要ガアリマス、先刻申シマス通り全ク字音ガ国語ニ化シテ居ルノガアル、ソレカラソレニ亜ギマシテ、「文」「錢」ノ外ニ、ア、云フ類ノ之ニ準ズベキモノガアリマス、例之バ「天地」ト云フコトハ「アメツチ」ヨリカ「テンチ」ノ方ガ行ハレテ居ル、是位ニ日本化スレバ是レハ国語ト見ナケレバナラス、ソレニ反シテ所謂漢字ニ隠レテ居ル字音ト云ヒマスルモノハ、日本化シタ程度ノ極ク低イモノデアアル、字音ニ隠レテ居ルカラ之レヲ改メルコトハ容易ダト云ツテアリマスルケレドモ、字音ニ隠レテ居ル程ナラバ改メナイデモ宜シイカモ知レナイト云フ一方ニハ理由ガ立チマス、ソコデサウ云フ日本化シテ居ル程度ノ低イモノハ除イテ、十分日本化シテ居ルモノヲ小学等ニ教ヘルト云フコトニナリマスルト云フト、字数ガ自然ニ限ラレルコトニナル、其ノ少数ノ字数ナラバ字音仮名遣ト雖ドモ教ヘラレルカト思フノデス、ソナラ久シク音ノ訛ツテ居ルモノハドウスルカ、例之バ今ノ「輸出」ガ「ユシユツ」ニナツテ居ルト云フヤウナコトデアリマス、斯ウ云フノハ「ユシユツ」ト云フ新国語ト認メマス、是レハ音デナイ訓ダト思ヘバ宜シイノデ

アリマス、是レハ字音トシテノ取扱ヲ停止スレバ宜シイノデアリマス、然ラバ未ダ字音ノ考ヘラレテ居ラヌモノハドウスルカ、大槻先生ハ烏帽子ノ「烏」ハ「エ」デアルカ「エ」デアルカト云フ疑ヲ御引キニナリマシタ、斯ウ云フコトコソ国語調査会ト云フウナヤ所デ定案ヲ作ツテ、兎ニ角一ツノ案ヲ作ツテソレヲ公認セラレルコトガ必要デアルカト思フノデアリマス、併シ困難ハ独リ字音バカリデハナイ、国語ノ仮名遣ニモアリマス、此ノ場合デハ殊ニ少数ノムツカシイ仮名カラ教ヘルト云フ手段ヲ研究シテ、其ノ方法ヲモウ少シ完全ニ作レバ、仮名遣ヲ広ク教ヘルコトガ出来ヨウカト思ヒマス、諮詢案デハ「動詞ノ活用カラ出テ居ル仮名」ト云フモノダケヲ保存スルコトニナツテ居リマスルガ、其ノ御趣意ハ至極結構ナ御趣意ト思ヒマス、併シ實際ノ案ニ表ハレテ居ルトコロハドウモ用意周到デナイヤウニ思フノデアリマス、例之バ和行ノ仮名ヲ以テ言ツテ見マスルト「居ル」ト云フ語ハ仮名遣ヲ存シテ置ク、是レガ名詞ニナツテ、例之バ坐ニ居ル「位」、「田居」、「芝居」ト云フ仮名ニナルト阿行ノ「イ」ニナルヤウニ思ハレル、又「据ウ」ト云詞^(マ)デテモ「スウ」ト云フ仮名遣ガ存シテアル、「ツキスエ」ノ「ツクエ」又「イシズエ」ノ「エ」ニナルト、是レハ阿行ニナツテシマフ、斯ウ云フコトガアツテ見ルト云フト、ドウモ境界ガハツキリシナイヤウニ思ヒマス、ドウモ此ノ案ハ未ダ十分熟シテ居ルマイカト思ヒマス、教育団トカ云フモノノ

意見ト云フノガ、此ノ頃新聞ニ出テ居リマスガ、大イニ参考スベキコトガアルヤウニ見受ケマス、大体ノ論ハ私ハ取りマセヌケレドモ、此ノ諮詢案ニ対スル教育団ノ意見ト云フモノニハ宜シイトコロガアルカト思ヒマス、又国語ノ仮名遣デ未ダ考ヘテナイモノ、例之バ「クヂラ」カ「クジラ」カ、「タハラ」カ「タワラ」カト云フヤウナコト、是レモ先刻ノ字音ト同ジク、斯ウ云フコトコソ国語調査会ナドデ研究セラレテ其ノ結果ヲ公認セラレタラ宜シイカト思ヒマス、兎ニ角字音ニモ国語ニモ仮名遣ニ困難ハアリマスケレドモ、凌グベカラザル程ノ困難ハナイヤウニ思ヒマス、ソコデ自分ノ意見ヲ尚ホ約メテ申シマズレバ次ノ通りデアリマス、第一ニ仮名遣ハ成程性質上カラ保守的ナモノデアアル、併シナガラ発音的ノ側カラ見テモ大ナル不都合ガアルモノトハ認メナイ、夫故ニ教科書ナドデハ矢張仮名遣ノ正則トシテ之ヲ用キラレタイト云フ、此点ハ陸軍省モ一般ニ其ノ意見デアリマス、第二ハ仮名遣ハ発音的ニ改メルト云フコトヲ為シ得ルモノデアアル、政府ハ極ク慎重ニ調査シテ漸ヲ以テ改メラレルガ宜シイ其ノ時ニハ国語ヲ淨メルト云フコトヲ顧慮シテ、徐々ニ直サレタイ、斯ウ云フノデアリマス、ソレカラ次ニ第三ニ此ノ仮名遣ヲ直スニ先立ツテ、国語ニモ字音ニモ仮名遣ノ未定問題ガアルカラ、サウ云フコトハ学者ノ団体ニデモ命ジテ兎ニ角定メサセテソレヲ公認セラレタイ、斯ウ云フノデアリマス、ソコデ此ノ諮詢案ト

云フモノハドウモ未ダ熟シテ居ラヌヤウニ思フ、尚ホ附ケ加ヘテ申シタイ意見ガアリマス、ドウカ政府ニ於テハ純粹ニ発音ニヨル国語ノ書キ方ト云フコトヲ、一層深ク研究セラレテ、丁度西洋デ発音学者、Phoneticノ学者ガイロク研究シテ居ルヤウニ国語ヲ成タケ完全ニ発音的ニ書クト云フ方法ヲ研究セラレタイト斯ウ思フノデアリマス、ドウモ唯今改正案ニナツテ居ル発音的ノ仮名ト云フモノハ発音的デナイ所ガアルヤウニ思フ、矢野君デアリマシタカ、斯ウ言ハレマシタ、「カウ」ダノ「コウ」ダノ「カフ」ダノ「コフ」ダノ「コウ」ト書ク、ソレハ矢張発音的ニ「コオ」ト「オ」ノ字ヲ書イタ方ガ宜シイト云フコトヲ言ハレマシタガ、御尤モト思ヒマス、古イ催馬楽ナドニ阿行ノ母音ヲ後ヘ添ヘテ書イタヤウナ例ガアルカト思フ、是レナドハ寧ロ発音的デ書クト云フ側カラハ「コウ」ト書カズニ、阿行ノ「オ」ヲ使ツテ「コオ」ト書イタ方ガ宜シイヤウニ思ヒマス、其ノ外発音ノ必要ナル研究ノ他ノ例ヲ言ヒマスト、外国ノ語ヲ書クトキニ英語デ云フ「アアル」ト「エル」ナドハ別々ニ表ハサレナイ、是レナドモ何カ符号ヲ以テ表ハスコトガ必要デアアル、サウナレバ「r」ノ音ヲ別々ニ表スコトガ出来ルト思フ、サウ云フ発音的ニ国語ヲ完全ニ書ク法ヲ十分研究シテ置カレルト云フト、其中カラドレダケノモノヲ採ツテ仮名遣ニ入レルト云フトキノ基礎ニナラウト思フ、サウ云フ元帳ヲ作ツテ置イテソレカラ静ニ改正ヲシタイノデアリマ

ス、ソレカラモウ一ツ申シテ置キタイノハ、小学ナドノ教育ニ新シイ発音仮名ヲ教ヘルト云フコトハ是レハ混雜ノ原因トナル、ソレハ教ヘナクテモ宜シイト云フコトデアリマス、是非小学校ノ初メカラ仮名遣ハ正シイ仮名遣ヲ教ヘルガ好イ、教科書ハ正則ノ仮名遣デ書イテヤリタイ、ソコデ子供ニ自身デ何カ書カセル、書カセル段ニナルト云フト或ハ発音的ニ書クカモ知レヌ、其ノ時ニ発音的ニ書イタノヲ誤トシナイ、ソレヲ認メテヤル、コンナ時ノ教員ノ参考ニハ今云ツタヤウナ発音的ノ書キ方ノ調査ガ出来テ居ツタナラバ、ソレヲ使用スルコトガ出来ルダラウ、発音的ニ書イタノヲ、ソレヲ誤ニハ勘定シナイ、斯ウシテ行キマス、サウスルト云フト一向差支ナイ、是レガ本当ノ許容デアル、是レナレバ許容ト云フ詞ハ正当ニ用キラレテ居ルデアリマス、ソコデ目ニ触レルモノハ悉ク本当ノ仮名遣ニナツテ来ル、斯ノ如クニシタナラバ、段々小学校カラ中学校ニ行クニ従ツテ仮名遣ヲ覺エルダラウト思ヒマス、大略斯ウ云フ意見デアリマス